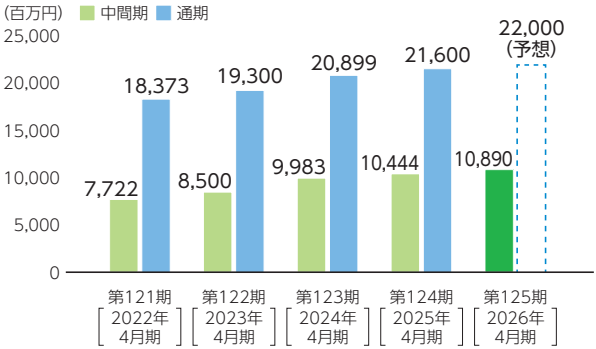
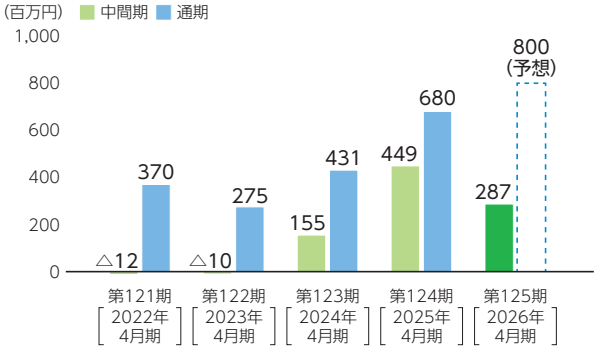


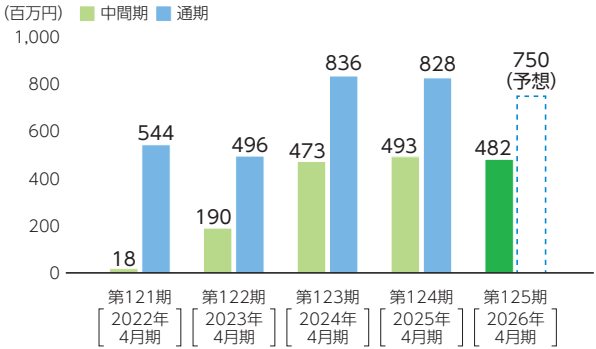
売上高



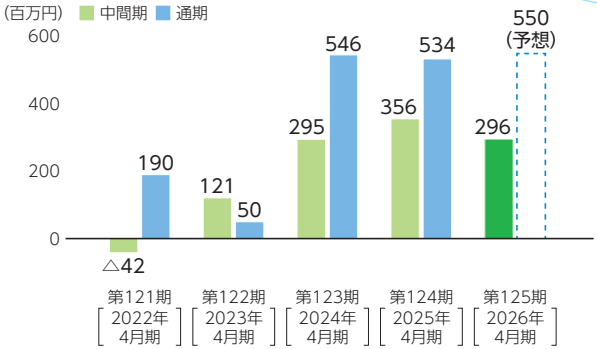
営業利益



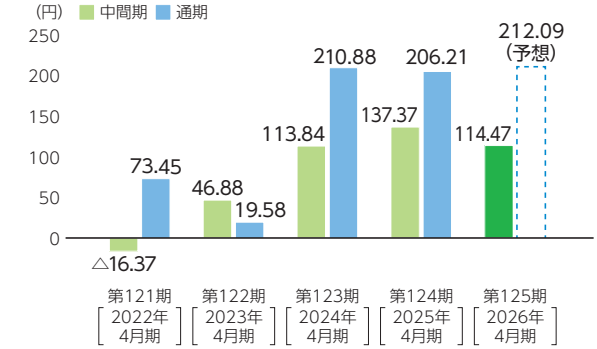
経常利益



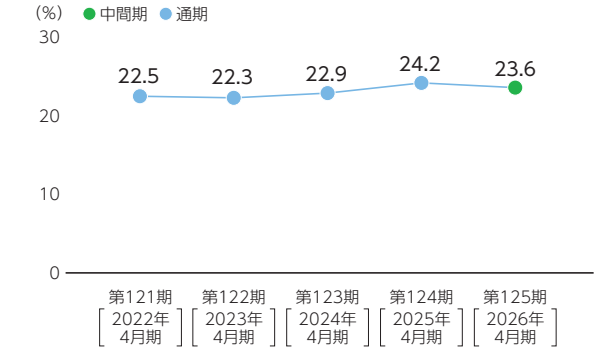
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



1株当たり中間(当期)純利益



自己資本比率



会社概要

(2025年10月31日現在)

設立 1910年(明治43年) 8月
資本金 1,378百万円
従業員数 323名(連結953名)
東京本社 東京都港区新橋二丁目20番15-701号
福山本社 広島県福山市一文字町14番14号
工場 函館・福山
事業所等 札幌・網走・函館・石巻・東京・高岡・福山・九州・紋別・釧路・八戸・いわき

取締役及び監査役

(2025年10月31日現在)

代表取締役社長	小林宏明
専務取締役	小林重久
取締役	北方浩樹
取締役	野村芳徳
取締役	岡耕一郎
取締役	杉之原祥二
常勤監査役	小柴訓治
常勤監査役	杉森和夫
監査役	立川隆造
監査役	佐藤卓己

主要グループ会社

(2025年10月31日現在)

[国内]
多久製網株式会社 有限会社吉田漁業部
株式会社泰東 株式会社温泉津定置
日東ネット株式会社 株式会社庄司政古商店
日本ターニング株式会社 ヤマグチ株式会社
CNK株式会社

[海外]
レデス・ニットー・チリ・リミターダ(チリ)
タイ・ニットウセイモウ・グローバル Co.,Ltd.(タイ)

株式の状況

(2025年10月31日現在)

発行可能株式総数 6,400,000株
発行済株式の総数 2,605,000株
株主数 4,262名

株主メモ

事業年度 毎年5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会 毎年7月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当：毎年 4月30日
中間配当：毎年10月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日。

株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
[郵便物送付先] 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
[電話照会先] 0120-782-031(フリーダイヤル)

公告方法 電子公告
<公告掲載URL>
<https://www.nittoseimo.co.jp/>
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京、名古屋

第125期 中間報告書

2025年5月1日から2025年10月31日まで

変化する時代のニーズに応え、確かな価値と 安定供給に努めてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、当社グループの事業に対して平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、当社第125期中間連結会計期間(2025年5月1日から2025年10月31日まで)の概況等につきましてご報告申し上げます。

2026年1月

代表取締役社長 **小林宏明**

Q1 当中間期の市場環境と業績はいかがでしたか？

当社グループ主力ユーザーの水産業界におきましては、外食産業や輸出向けの需要が堅調に推移していること等を背景に、多くの魚種で魚価の回復が見られます。一方で、海洋環境や気象状況の変動が大きくなっており、今夏の猛暑による海水温の上昇の影響等により、一部の魚種

では漁獲量が減少しております。また、人件費や資材コストの上昇等が事業収益の圧迫要因となっており、漁業資材への設備投資意欲は減退していないものの、やや慎重になるケースも見受けられます。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、漁業関連事業では、魚価が堅調に推移したことから養殖網部門が活況となり、加えて水産部門の売上高や漁業子会社の水揚げが好調であったこと等により、前年同期と比べて

増加しました。陸上関連事業でも、獣害防止ネットやアスレチックネット等の施工工事の受注が好調であったことから前年同期と比べて売上高は増加しました。一方で、営業利益は、継続的な価格改定等を推進しましたが、受注確定の遅れなどにより、生産の平準化を図れなかったこと及び原材料費や人件費等のコストの上昇により前年同期と比べて減少しました。営業外損益では、為替変動による為替差益や外国税還付金を計上しました。また、金利の上昇に伴い、支払利息が前年同期と比べて増加しました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は10,890百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は287百万円(前年同期比36.2%減)、経常利益は482百万円(前年同期比2.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は296百万円(前年同期比16.7%減)となりました。

Q2 通期の課題と対応、業績予想をお聞かせください。

当中間期の国内景気は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要が堅調であることから経済活動は緩やかな回復が期待される一方、長期化するウクライナ情勢などの地政

学リスクや物価上昇の継続に加え、米国の通商政策等により不透明な状況で推移するものと予想され、現時点での当社グループの業績面等は以下の見通しです。

漁業関連事業につきましては、個人消費の緩やかな改善、インバウンド需要も依然と好調であることなどから、水産物の需要は堅調に推移しており、安定した魚価等を背景に漁業資材への設備投資の需要は底堅く推移するものと見込んでおります。また、各種政策や制度資金などを活用した設備投資案件を取り込んでいくとともに、海外案件の具現化、オリジナル商材の拡販にも注力してまいります。

陸上関連事業につきましては、獣害防止ネットやアスレチックネット等の施工工事の受注が堅調であり、その他産業用資材の売上高の増加も期待できる状況にあります。

第125期の通期業績につきましては今後の社会情勢、経済環境により、変動する可能性はありますが、売上高22,000百万円、営業利益800百万円、経常利益750百万円、親会社株主に帰属する当期純利益550百万円を見込んでおります。配当につきましては、第125期の期末配当金として1株当たり50円を予定しております。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

漁業関連事業

8,996百万円 (82.61%)

魚価が堅調に推移し、漁業者の計画的な設備投資は継続していること等から、養殖網部門が活況となり、加えて、水産部門の売上高や漁業子会社の水揚げが好調であったこと等により、売上高は8,996百万円(前年同期比0.7%増)となりました。利益面は、生産の平準化を図れなかったことや人件費等のコスト上昇により、セグメント利益は219百万円(前年同期比47.5%減)となりました。

事業紹介



定置網



海苔網

定置網をはじめ、旋網、底曳網、養殖網、海苔網など、漁業に欠かせない製品を数多く提供しております。また、漁網の設置や漁場調査、漁場に適した網の設計、仕立といったソフト面のサポートも充実しております。さらには、漁獲された魚の販売や販売先の紹介など、漁業の現場に即した事業展開を心がけております。これからも蓄積した技術に加え、新しい技術を積極的に生かして、お客様のご要望に対応してまいります。



船舶

陸上関連事業

1,893百万円 (17.38%)

獣害被害の増加に伴い、獣害防止ネットの受注が増加したこと及びアスレチックネット等の施工工事の受注が好調であったことから、売上高は1,893百万円(前年同期比25.3%増)となりました。利益面は、人件費等の経費は上昇しましたが、売上高の増加により、セグメント利益は67百万円(前年同期比117.4%増)となりました。

事業紹介



防風・防砂・飛散防止ネット



獣害防止ネット

サッシ用防虫ネットや防球ネット、獣害防止ネットから遊具ネットに至るまで、様々なシーンでご利用いただける製品を提供しております。環境問題意識が世界的に高まる中、SDGs達成に向けて商品開発にも注力しております。中でも獣害防止ネットは20年以上前より生分解性ネットの開発を独自で行い、エコフレンドリーな活動を継続してまいりました。今後も時代の変化に合わせた繊維製品の提供を行うことが当社グループの社会的使命と考え、環境負荷の少ない商品やサービスの提供を通じて社会貢献を目指してまいります。



遊具ネット

